

国内研修報告書

【前書き】

今回私が国内研修に参加することになったきっかけは、2年生の夏休みに行った海外研修である。海外研修での視察先に BUP という小児精神科のクリニックがあった。その院長が日本では精神病に対して恥じらいを持っているため、治療できる施設がまだまだ少ないと仰っていた。それを聞いて確かに子どものための精神科クリニックなどは日本であまり聞いたことがないことに改めて気づいた。その後、日本で子どもの心理療法、精神病に対する治療をもっと広げていくために日本ではどんな取り組みが行われているのかに興味を持ち、調べてみた結果 NPO 法人子どもの心理療法支援会「サポチル」という団体にたどり着いた。また、せっかく関西に行くのならと思い、自分が生まれた年である 1995 年に起こった阪神淡路大震災のことを知るとともに、これから起こる可能性が 0 ではないであろう大地震が起こった時に心のケアをどう行うか参考にできるものがあるのではないかと思い阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」を見学した。

研修先① NPO 法人子どもの心理療法支援会サポチル

1-1 概要

子どもの心理療法支援会は主に子どもたちが心理療法を受けられるように支援をすることと、専門性の高いセラピスト育成の場の提供の 2 つの活動を行っている。

虐待を受けている子ども、児童養護施設で生活をしている子どもや発達障害の子どもたちはその心や悩みを理解してくれる専門性の高い大人を強く必要とする。しかし、周りの大人の気づきによって子どもは専門機関で心のケアを受けることが可能になる。現在、臨床心理士が心のケアを提供する活動が増えてはいるが経済的な理由によって論証心理士が常駐している施設はそんなに多くはないのが現状である。また、心理療法にかかる費用が日本では保険適応外であるがために自己負担が大きく、子どもたちは治療を受けに行くことが簡単にはできない。そのような状態の中でサポチルは心理療法にかかる費用の負担、定期的に安定した専門性の高い心理療法の提供を行っている。

また、サポチルでは心のケアをするための高い専門性を有する人材の育成および専門的知識の普及を行っている。そのために、研修やセミナーを行い「子どもの精神分析的心理療法士」の輩出をしている。また、専門家が多く集まっているため地域ネットワークや専門家ネットワークをつなげて子どもの支援を行っている。

1-2、感じたこと

研修当日、サポチルの施設で理事長の平井正三さんにお話を伺い、サポチルでの活動内容を詳細に教えていただいた。また、サポチルの活動だけでなくこころのケアを行って

る機関として現在の日本の現状をどう見ているかも伺ったところ、現状では確実に金銭的な問題が大きくなり、定期的なカウンセリングも形だけのものになっているところが多いと仰っていました。また、震災によって心のダメージを受ける PTSD の存在が今は広く知れ渡っているが、阪神・淡路大震災の時は知らない人も多いためあまり問題視されていなかったことで適切な治療が行われなかったことにより、その状態のまま育児をして子どもが育ち、歪んだ愛情などを持った子どもが育つトラウマの第二世代の問題が生じてきている。この場合子どものことだけを考えた治療ではなく親も含めた治療が必要になっていくだろう。それに気づかない親の元で生活をしている子どもをいち早く発見して治療を行うことのできる環境へ移してあげられる手助けが将来できたらいいなと思った。

また、ここ最近では児童養護施設での自閉症スペクトラムやアタッチメント障害などが増えていると聞いて、親からの愛情を受けることが難しい子どもを助けるための児童養護施設なのにもかかわらず十分な愛情を与えることができないのは矛盾しているからもっと施設での人手不足を見直すべきだと感じた。

研修先② 人と防災未来センター

2-1、概要

人と防災未来センターは国からの支援を受けて 2002 年に兵庫県が設置し、公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構が運営を行っている施設である。阪神・淡路大震災の経験と教訓に基づき、「展示」「実践的な防災研究と若手防災専門家の育成」「災害対応の現地調査・支援」「交流・ネットワーク」「災害対策専門職員の育成」「資料収集・保存」の 6 つの機能を持ちながら災害文化の形成・地域防災力の向上・防災政策の開発支援を図り、安全安心な市民協働・減災社会の実現に貢献することを目指している施設である。

2-2、感じたこと

再現 VTR を見て、私はいままでの震災へのイメージが大きく変わった。身近なものが一瞬にして壊れていってしまう恐怖は体験しようとも体験しきれないものであった。

そのそんな環境であったからこそ人と人が助け合うボランティアスピリッツが芽生え、阪神淡路大震災はボランティア元年と呼ばれるようになった。

また阪神淡路大震災を契機に NPO 法人が制定され、炊き出しなどの活動から海外震災の支援まで普及した。

つまり、阪神淡路大震災があったからこそ今回訪問したサポチルも存在していると考えたと自然災害から逃れることは出来ないが、そこで人が何を出来るのか考えることでよりよい社会を作れると感じた。

私はいま、将来のことについてどうしたらいいのか分からない状態にいる。しかし、今回の国内研修に参加して自分がこれから社会に出ていく上で大切な考え方や、自分が進んで

いく道のヒントを多く貰える実りのある研修となったと考える。